

成功と失敗と、不完全燃焼 目指すは、【完走】

工学院レーシングチーム

Kogakuin Racing Team

<http://www.ns.kogakuin.ac.jp/~wwa1032/index.html>



今回の総合結果・部門賞

●総合21位 ●日本自動車工業会会長賞

Profile チーム紹介・今までの活動

発足から10周年を迎えたKogakuin Racing Team: KRTは今年度、主要メンバーの脱落など決して平坦ではない道を歩んできました。それでも何とかここまでやってこられたのは、少しでも速いマシンを作ろうと一生懸命を動かせるメンバーの気概があつてのものだと実感しています。

Team-member チームメンバー

半坂 剛志 (CP)

野崎 博路 (FA)、雑賀 高 (FA)、山本 崇史 (FA)、見崎 大悟 (FA)
川林 直輝、木津川 駿也、金原 馨、竹内 啓、新沼 大悟、沖田 誠司、楠本 裕之、高木 智規、遠山 良太、土器 雄一、中島 亮平、南雲 活広、野崎 功旺、森 健太、安藤 史剛、上原 千於里、内山 洋人、大倉 明弘、大野 秋音、奥山 智貴、押野 優汰、金野 竜也、小池 理紗子、小堀 哲夫、坂本 悠馬、辻 智駿、西濱 悠、橋本 大地、早川 雄大、眞柄 郁哉、間野 輝、三宅 結美、宮崎 大宗、八島 裕士、山浦 良健、山田 祐晃、山本 優、行本 千速、吉村 慎太郎

Sponsors スポンサーリスト

本田技研工業、NTN、ミスミ、スリーブス技研、五十嵐ブライヤー、兼古製作所、古寺製作所、松井精密工業、マルト長谷川工作所、須佐製作所、トップ工業、呉工業、東京ハンマーキャスター、象印チエンブロック、VSN、ダウ化工、タカタサービス、深井製作所、ソーシオ、カナエ、ビスコ販売、ジーエイチクラブ、鍋屋バイテック、神戸製鋼所、特殊技研、共和電業、ハイレックスコーポレーション、東北ゴム、石川工業、ステンレス商事、ミドルインターナショナル、ニコル・レーシング・ジャパン、スクータックジャパン、三協ラジエーター、富士精密、F.C.C.、江沼チエン製作所、日信工業、THK、スポーツランドやまなし

Presentation プレゼンテーション

マシン名: **KRT14**

13年度のマシンコンセプトを総合性能の向上と掲げ、加速性能が大幅に向上したものの旋回性能が上位校に今一步及ばなかったため、14年度は「コーナリング性能の向上」をマシンコンセプトとして車両開発を行ってきました。パワートレインがコーナリング脱出時のエンジン回転数に合わせられるような吸排気管を開発する一方で、シャーシはねじり剛性の向上とダウンフォース向上を目指しました。足まわりが、メンバーらの引継ぎがうまくいかず知識不足のままジオメトリーを設計してしまったキライがありましたが、開発を続けていくうちにノウハウを高めていき、大会直前には一端の足を持った車両となりました。ドライバーの乗車姿勢も今までより寝かせて低重心化を図っています。結果的にドライバビリティーを以前より損なったマシンレイアウトと相成りましたが、高いポテンシャルを持ったマシンだったのではないかと思います。

今までエンジンの出力を一度も測ったことがありませんでしたが、今年は何度もシャーシダイナモによる計測の機会を設け、燃調などのセッティングをより効率的に行えたと振り返っています。

Participation report 参戦レポート

14年度は日程が順調ではなく、シェイクダウンが7月上旬にまでもつれ込んでしまいました。また走行不足とならぬよう、夏は多くの試走会に参加しプライベート試走も企画しましたが、8月中旬にエンジンブローさせて大急ぎで修理に明け暮れるなど、決して順風満帆な1年とは言えなかったと思います。それでもメンバーたちが高いモチベーションをもっていただけからこそ、「やれることはやった」と自信をもって大会に持ち込める車両になったと考えています。

FSAEの趣旨を鑑みれば最重要ともいえるデザイン審査では昨年度より22点アップすることに成功し、他の静的審査でもわずかながら得点を向上できました。

ところが車両整備中にフロントウイングのステーを誤って修正不可能なまでに破壊してしまい、動的審査をウイング非搭載で出走することとなりました。非常に悔しい思いをし、かつ若いメンバーらにとっての良い教訓を得ました。

13年度改善できたアクセラレーションでは、それよりさらに0.1sec縮めることができ、スキッドパッドもわずかながらタイム短縮に成功しました。オートクロスはあまりうまくいかなかったものの、エンデュランスに無事出走が決まりました。

ところが、エンデュランスセカンドドライバー走行中に他チームの車両が出火、コースクローズとなり、工学院大学は残り10周を残したまま完走扱いとなり、なんととも言えない終わりがたを迎え、痛烈なショックを受けました。

来年度はよりコーナリング性能を煮詰め、今度こそ完全燃焼できる大会にしていくつもりです。

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/12th/movie/22.html>